

鹿児島大学病院広報誌

だより

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会



《目次》

●新病棟(C棟)が完成しました

【診療科・部門紹介】

》総合臨床研修センター

》霧島リハビリテーションセンター

●錦江湾魚ごよみ

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療を心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

〈患者さんの権利〉

1. 良質な医療を公平に受ける権利
2. 人としての尊厳を尊重される権利
3. プライバシーや個人情報保護される権利
4. 自分の状態や診療内容について説明と情報提供を受ける権利
5. 自分の意思で医療を選択する権利

〈患者さんの責務〉

1. 自分の健康状態についてできる限り正確な情報を提供する責務
2. 当院の規則を守り、迷惑行為を慎む責務
3. 診療費を速やかに支払う責務

新病棟 (C棟) が完成しました

医学部・歯学部附属病院の再開発第3期整備として建築中であった新病棟(C棟)がこのほど完成し、10月3日に関係者を招き竣工式が執り行われました。

式では、前田芳實学長から「新病棟竣工により、地域の医療拠点、医歯学の教育研究の拠点として、皆さまの期待にこれまで以上に応え得る最先端の病院となることを確信しています」と意気込みが語られ、熊本一郎病院長からは「県の財政支援を受けて総合臨床研修センターを設置しました。卒後臨床研修のみならず県内の医療職の方々の研修に活用していただこうと考えています」と挨拶がありました。

続いて、佐々木鹿児島県副知事、徳留鹿児島市保健所所長、池田鹿児島県医師会会長、前田学長、熊本病院長の5名によりテープカットが行われました。



式辞を述べる熊本病院長



テープカットの様子

新病棟は、地上9階建(延べ床面積15,437㎡)の免震構造で、294床を擁し、既存病棟より病床、スタッフステーションなどの床面積を拡充した開放的な造りとなっており、個室の増床、各個室・4床室へのトイレ設置など患者さんの居住環境も大きく改善されています。屋上には県ドクターヘリの受入、患者搬送時間短縮などに貢献するヘリポートが整備されています。

また、8階には、県地域医療再生臨時特例基金を活用した総合臨床研修センターが設置され、内視鏡手術や超音波検査などを模擬体験できる各種シミュレータやチーム医療や看護研修に使える模擬病室などを備えています。

既存の本館から294床が移転し、平成26年1月から稼働の予定です。



新病棟航空写真



夜の景観 新病棟東面

新病棟 (C棟) 建物案内

(平成25年12月28日現在)

屋上	ヘリポート
9F	設備室
8F	総合臨床研修センター、 病院ラウンジ
7F	消化器内科、腎臓内科、 心身医療科
6F	小児科、小児外科
5F	心臓血管内科、 糖尿病・内分泌内科
4F	消化器外科、乳腺・内分泌外科
3F	耳鼻咽喉科・頭頸部外科、 神経内科、放射線科
2F	神経科精神科
1F	厨房、設備室



ヘリポート(屋上)



各種シミュレータ(総合臨床研修センター)



スタッフステーション



4床室用トイレ

鹿児島大学医学部・
歯学部附属病院

総合臨床研修センター

2014年から稼働する鹿児島大学病院・新病棟の8階に、大きな講義室、各種演習室、模擬病室等を備えた総合臨床研修センターが完成しました。

平成16年度より「臨床研修制度」が開始されてから研修医が県外へ流出し、それが鹿児島県の医師不足の一因となっています。それに対し、鹿児島大学はもとより鹿児島県・県医師会が一丸となった「オール鹿児島」として、県内で魅力ある研修が行えるよう取り組んでいる中で、最大の目玉といえます。

臨床医学教育は大きく変わりつつあります。プライマリ・ケアに必要な総合的な医療から高度医療まで、多くのことを修練する必要があります。従って、臨床の場で修練を行うだけでは、現在の多様で高度な医療技術を身につけることが難しくなってきました。これらの技術を安全で効率良く修練するためには、シミュレータを用いた高度なトレーニングが必要です。本センターには基礎的な手技から専門医・上級医向けの高度な手技まで修練可能な設備が整っており、目的に応じて様々なトレーニングをいつでも行うことが可能です。これらの設備を使い、繰り返しトレーニングすることにより問題点や克服課題が明確になり、修得した技術を臨床現場でより安全に生かすことができると考えています。また、必要な知識や技術の補完だけでなく、医療者間の知識の共有・円滑なコミュニケーション構築ができ、よりよい医療が行えるようになると思います。

本センターは、卒後初期研修医だけではなく、県内全ての医療関係者への生涯教育の場を提供することで、鹿児島県における地域医療に貢献したいと考えています。これからの鹿児島を担う医療人の育成を目指します。



総合臨床研修センター



セミナー室



演習室1



演習室7



血管造影シミュレータ



演習室2



救急蘇生シミュレーション風景



内視鏡シミュレーション風景

霧島リハビリテーションセンター 看護部

霧島リハビリテーションセンターは鹿児島市内から車で約1時間、自然豊かな霧島温泉郷にあります。一般病棟(24床)と脳卒中発症後2ヶ月以内に入院する回復期リハ病棟(26床)があり、在宅・社会復帰に向けてのリハビリを行っている病院です。

看護師は30名が働いており、日常生活の支援や社会復帰に向けた様々な取組みを医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などと共に「その人らしく生きる」「あきらめない看護」のリハマインドを発揮してチーム医療を実践しています。

また、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師と摂食・嚥下障害看護認定看護師がおり、指導・相談を通して、専門性の高い看護を提供できるように努めています。



医師・看護師・合同での治療方針についての検討会



公開講座:麻痺のある人のベッドから車いすへの移乗についての実践演習



摂食嚥下訓練

在宅に向けて

- 病室での看護師によるリハビリ
- 患者さんごとの家族指導
- 医師・看護師・理学療法士・作業療法士・ソーシャルワーカーなどによる在宅に向けての検討会
- 外泊訓練



家族を対象にした介護の勉強会



文化祭:リハビリで作成した作品の展示

美しいのに「ボロカサゴ」

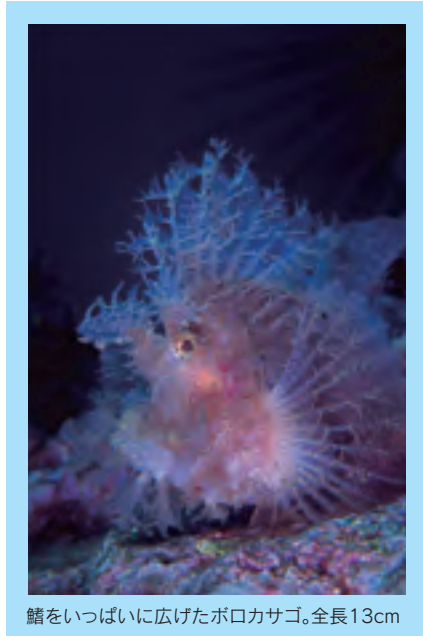
潮止まりの時間を待って、沖小島西岸に潜りました。ひと時、深場からの帰り道、タンクの残圧を気にしながらボートに戻る途中、砂の斜面にある一抱えほどの岩の頂上にボロカサゴを見つけました。私が近づくと彼女は身体を揺らしながら、岩の上をゆっくり回り始めました。実はこの動きは、「演技」なのです。不意に現れた私に、「私は、波に揺れる千切れた海藻の塊ですよ……」と魚であることを隠そうとしているのです。レースのような鰭を広げる姿は、舞台の上の着飾った女優さんのようです。こんなに美しいのに、どうしてこんな名前を付けられてしまったのでしょうか。

ボロカサゴの体色には様々な変異があります。彼の体色は、透き通るような白に近いベージュ色。黄色やピンク色が多いボロカサゴとしては、とても珍しい体色です。鰓蓋からは内部の赤い鰓が透け、まるでチークをしたように赤く見えます。

私は、3年前に沖小島の反対側で出会ったボロカサゴの幼魚を思い出しました。そのボロカサゴも、同じ色彩の個体でした。この個体は、もしかすると、あの時の幼魚の成長した姿かもしれません。

後に確認した所、体表の模様から、あの幼魚と同じ個体であることが確認できました。

私の3年間には色々な事がありましたが、彼女の3年間にも様々な出来事があったことでしょう。スライドボックスの上の2枚の写真を見ながら、私と彼女の時間の流れに思いを馳せました。



鰭をいっぱい広げたボロカサゴ。全長13cm

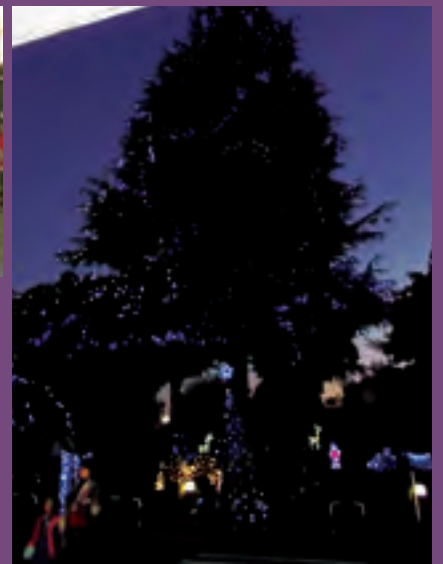
TOPICS

イルミネーション点灯

鹿児島大学病院では今年で5回目となるイルミネーション点灯式が、12月2日夕方、病院医科診療棟1階玄関前で入院患者さんや病院長などの関係者が出席して行われました。

病院長、小児科入院中の子どもさん2人の3人により、スイッチが押されると、美しいブルーとホワイトの電球約6,500球が使われたイルミネーションが一斉に点灯し、出席者から大きな拍手と歓声があがりました。

このイルミネーションは、財団法人親和会より患者さんに「潤い」、「癒し」を感じてもらえるように提供されたもので、1月初旬まで点灯され入院患者さんや来訪者の方々の目を楽しませてくれました。



広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気について的一般知識など知りたいことがありましたら、お知らせください。

また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈32号〉

2014(平成26)年1月発行

発行／鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>